

アイデア名：琵琶湖の水草有効利用の社会的仕組みを 市民の力でつくりあげる

チーム名：水宝山（水草は宝の山）プロジェクト

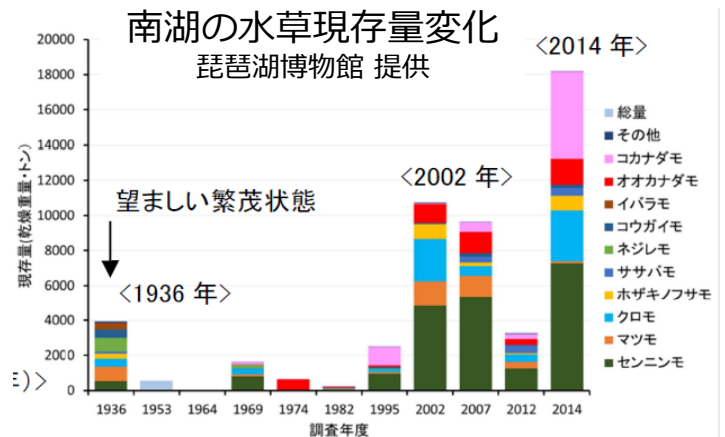
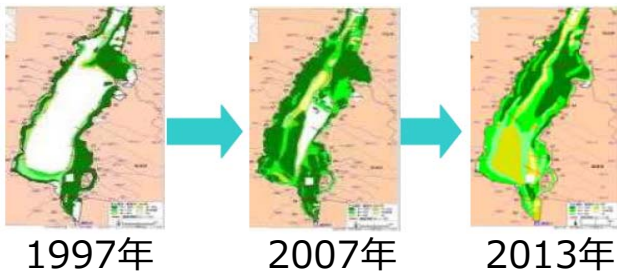


滋賀県民は琵琶湖を「母なる湖」として
子供の頃から大切にすることを学ぶ

— すべての小学五年生が学習船「うみのこ」で一泊研修に参加するなど
子供の頃から「琵琶湖と環境」について学ぶ機会がある —

琵琶湖の水草問題

南湖水草繁茂状況の推移 (独)水資源機構提供



近年、琵琶湖で深刻化・・・南湖の9割を水草が覆ってしまう年も

【迷惑問題】

琵琶湖岸に漂着する水草



異臭や景観悪化
主に湖岸自治体が処理
※大津市2300万円の税金

生態系への影響
主に滋賀県が処理
※3億円の税金

【環境問題】

琵琶湖表層や湖底に繁茂する水草



自治体が税金を投入して処理できているのは全体の5%程度

処理される水草の一部は堆肥として再利用されたり、新素材としての研究も進む

身近な迷惑問題から市民の力で解決



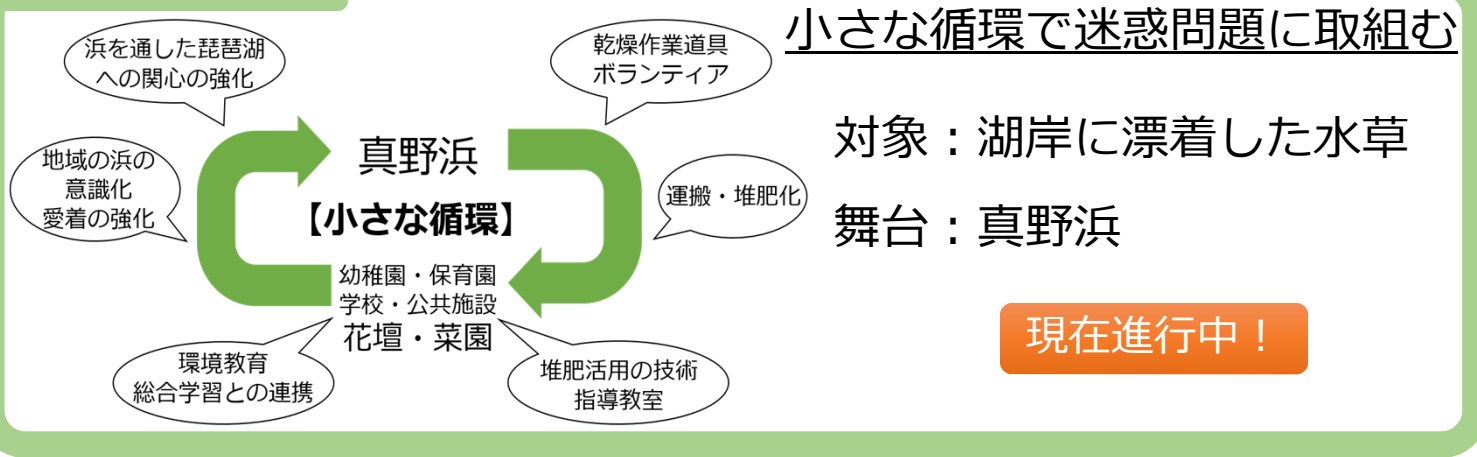
大津市真野浜では湖岸の住民が
独自に開発した道具を活用して
水草を集めるなど工夫を重ねて来た

地域の多様な人たちが集まり、水草の山を
宝の山にかえる「水宝山プロジェクト」で
資源循環システムを実証実験する



資源循環システムの実証実験

フェーズ 1



フェーズ 2



フェーズ 3

積み上げたノウハウをほかの琵琶湖岸自治会へ展開

大津市との連携

- ・ 市民の検討の場に参加
- ・ 行政は経験・知識の情報提供
- ・ 実現に向けた関係部局との連絡調整
- ・ 活動の情報発信

